



みどりの風

No.60 発行日 30.5.15

MIDORI NO KAZE

H.P <http://akaneen.com/>

「平成の30年」は「あかね園の30年」

～共生社会の中で共に「働く」「暮らす」ための支援のかたちが増えてきました～

施設長 松尾 公平

平成30年度のスタートとタイミングを同じく、法人後援会の発行する広報誌「みどりの風」が今号で60号という節目を迎えました。あかね園も設立から30年が経過し、ほぼ時を同じくして、「平成」の年号も間もなく終えることとなります。

「もっと働く機会と場を」の掛け声に親達为中心となって立ち上げた法人「あひるの会」。あかね園のサービスは“制度ありき”ではなく、“親の思い”と共に発展してきました。「働く機会と場が欲しい」→「高い工賃を」→「企業に就職したい」→「就職した後が心配（定着支援）」→「クビになったら戻る場所を」→「余暇を充実させ、働く意欲を」と、“働くこと”を真ん中に置きながら、“安心して働くこと、働き続けること”の声に届いてきた「平成の30年」でした。（下図：「働く支援の充実」参照）

設立時（昭和62年）に20歳前後だったあかね園の利用者達も今では五十路となり、80代の親達も少なくありません。

今なお企業で、あかね園で、しっかりと働き続けている本人達ですが、親の抱える我が子の「将来の暮らし」に対する悩み、心配は年々大きくなりつつあります。

一生涯での「働き方」の流れがしっかりと構築された中で、同時にあかね園が求められる支援は、まさに「暮らし」です。

親の高齢化、親亡き後の本人や親の描く、将来の暮らし像は主にA：地域での一人暮らし B：（親）兄妹等との同居 C：入所施設（終身型ホーム）の選択肢に分かれます。現在6か所ある（今後も増えていく）あかねホームは、これら個々の描く将来の暮らし（目標）に応じたコンセプトを有する「ステップアップ型」のホームとして、あかね園の「暮らし」を支える大切な役割を担ってきています。

下図に示すあかね園の「働く」「暮らす」それぞれ「5つの輪」の支援はその目的やコンセプトがきれいにリンクします。各事業（ホーム）が①それぞれの役割を果たし、次のステップに押し上げていくこと、次に②長期的サポートにより定着を図る事、そして、③（失敗やリタイアをしても）戻れる場をつくっておくこと。併せて全体の「流れ」と「節目」も大切にしていかなければなりません。設立者をはじめ、たくさんの方々の思いと協力があって、一人の人生の約50年を支える「働く」「暮らし」のかたちが増えてきました。



共生社会の中で長く安心して“働き”“暮らす”ために…

後援会としては、これまで10年以上にわたり「地域で暮らす為に」のテーマで勉強会を重ねてきましたが、より大切となる将来を見据えた生活する力について、今年度は各親の会でもこのテーマに沿った研修もしてきました。この1年の集大成として、母だけでなく父や兄弟、姉妹にも参加して頂いた、第二回目のあかね園大見学会と懇談会の様子をまとめてご報告します。

保護者会 勉強会 報告：保護者会会長 原田

これまでも他施設の見学、講師を招いての勉強をしてきましたが、国の福祉への考え方が大きく変わりそして、利用者、保護者の状況も変わる中で、「障がいがあっても地域で働く、暮らす」という法人の理念が、より現実的になってきました。保護者会として危機感もち園と相談しながら、まずは「良い生活習慣」をテーマに日常生活を振り返ることから始めました。年間としては皆さんの悩みや問題点をもとに4つのテーマに分け、毎月1テーマずつみんなで話し合いました。職員のアドバイスを受けながら、活発な意見交換を通じて保護者同士の疎通をはかることができ、大変参考となったベテランのお母様方のお話や職員の話からさっそく、取り組む方もできました。



現在、子供達はあかね園で地域生活の礎となる訓練を受け、多くの園生は4～5年で巣立ちます。この最も大事な時期、親もしっかり学び園と同じ方向性を持つことにより、子供達が将来に亘ってより良い地域生活を送る事ができ、私達の老後の安心にも繋がると信じています。

就労者親の会 勉強会 報告：就労者親の会会長 岡崎

「親の会」発足から10数年経過した頃、支援センターの職員から「就労者増の一方、離転職者も増えている。本人を支える家庭の力にも関係がある」との指摘をきっかけに、「親の研修」に本格的に取り組み始めました。

掲げるテーマは「働く子供を支える家庭の役割」。あかね園発信での勉強会や見学会、座談会、企業の方による講演会等、毎回視点や角度を変えての企画でこの大テーマにアプローチしてきました。

昨年は松尾施設長から、これからの住まいや暮らしをどうするか、今をどう生活するかのテーマで勉強会(全3回)を開催。3回目では、地域で暮らしていく為の「本人基礎編・実践編」と何を準備していくかの「家族編」が提示されました。この中で「本人が肯定的に自分の将来を選択していくための準備や環境づくりこそが大切で、その土台となるのは日頃からの良き生活習慣の習得にある」事を学び、まさにこれこそが「家庭の担う役割」との認識を新たにしました。

今後はさらに一歩進めるための研修を考えていきます。



第一部 あかね園大見学会

あかね園をもっと「知ってもらおう」ことを目的として、今年度も開催した大見学会。はじめに施設長の松尾からあかね園のサービス概要説明と「あかね園の取り組みが必要な理由」というテーマでお話をさせて頂き、長期的視点におけるあかね園の支援の大切さを来園された皆さんと共有し、見学会がスタートです。前回は全グループでの働く取り組みを皆さんに見て頂いたので今回は普段見ることの少ない取り組みを各事業で企画しました。

自立訓練事業では挨拶や唱和、集中訓練等の“これぞあかね園！”ともいえる緊張感ある生活訓練の様子を、就労移行支援事業では今年度スローガンとしてきた、「自主性」や「責任感」を高め、最小限の職員サポートの下、本人達が主体的に作業を進める様子を、そして就労継続支援B型事業では、これからの長きに亘って働き続けるために、理学療法士や作業療法士監修のもと、年間を通して取り組んできたストレッチや筋力運動等の個々のプログラムの成果を測定する様子を見て頂きました。

見学された方々からは「園の事をほとんど知らなかったが、安心した」「表情が生き生きとしていて、とても良い環境だと感じた」「家の様子とは違う、きびきびとした姿に感動した」「心のこもった支援を感じ、ここに通わせることができて本当に良かった」等の声を聞くことが出来ました。

見学会当日に向けては園の職員達も企画や準備等を通じ、日頃の自分達の支援を改めて見直す機会となると共に、沢山のご家族等からの疑問や励ましの声は園にとっても貴重な時間でした。

あかね園・保護者会・就労者親の会 共催

後援会 研修会 地域で暮らすために (VOL.11) ～親と子の高齢化に伴いこれからの暮らしを考える～

第二部 これからの暮らしを語り合う会

第二部は施設長から「地域生活に関わる制度の動向」を通して、今後の障がい者の地域生活が大きく変わっていく事と「あかね園のグループホームの今後の方向性」が伝えられました。柴田常務理事からは「これからの暮らしを考える」のテーマのもと、共生社会では生活する力が大切。本人が自分のことを自分でする、考える。親は口や手を出さない、見守りながら本人の力を引き出す。この言葉は親だけでなく支援者にとっても改めての気づきと確認する時間となりました。

「語り合う会」では現実味を帯びてきた親の高齢化の切実な思いや親亡き後、兄妹が支えていく事の懸念も聞かれる中、親として、将来の事を心配しながらも、思うように準備の進まない悩みに対し、他の家族から「こうして乗り切った」や「職員の手を借りる方法」等のアドバイスも聞くことができました。

また、普段お会いすることの少ない父親や兄弟、姉妹からも不安の声だけでなく、「本人との向き合い方を見直す機会となった」や「家族の将来を考える貴重な一日だった」との感想も多く聞かれました。

今後、障がい者を取り巻く社会や制度等の状況は大きく変化していきます。また、親も本人も年齢を重ね家庭環境の変化もしかりです。そんな中、制度(福祉サービス)をはじめとした必要な情報を家族らがキャッチできること、困った時にはいつでも相談できるあかね園としっかりとつながり続けることの大切さを実感していただけたのではないかと思います。新たなテーマや「もっと家族を参加させたい」等、次の開催を望まれる声も多く、園としても各会と相談しながら、今後このような会を企画していきたいと思っています。



平成29年度「友の会」決算報告と平成30年度後援会事業計画

平成29年度「友の会」の運営は、皆様のご支援、ご協力によりその役割を果たすことができました。お礼申し上げますと共に、ここにご報告致します。

6月16日(金)には、友の会30周年記念コンサート「バレエとクラシックの奏で」を開催し、バレエと管弦楽の生演奏は、節目の年にふさわしい華やかな舞台となりました。

研修会は、昨年と同様に家族が参加しやすい日

として、2月10日(土)に行い、多くの父親・兄弟姉妹が出席し、大変好評を得ました。

29年度法人へは、600万円を寄付致しました。決算につきましては、4月10日山崎順子、大城廣美両氏の監査を受け、適正と認められました。

30年度は4月より「友の会」から後援会に名称を変更し、活動の理解拡充に努めます。引き続き皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

収入の部		支出の部	
			単位：円
前年度繰越金	4,735,585	事務費	582,241
会員会費	6,115,110	研修費	84,701
(個人408名、企業31件)		コンサート	1,768,371
コンサート	1,701,012	法人への寄付	6,000,000
寄付金等	15,000	次年度繰越金	4,131,439
預金金利	45		
合計	12,566,752	合計	12,566,752

※お詫びと訂正

前回(59号)4面に記載された第30回友の会コンサートは、正しくは友の会30周年記念コンサートです。

30年度事業計画

5～6月	会員増強月間
5月	みどりの風60号発行
11月9日	コンサート
12月	みどりの風61号発行
2月	研修会

園日誌

本吉 晋太郎



昨年の4月、新しい外作業班(通称:住商GL班)がスタートしました。仕事の内容としては、大手ケーブルテレビ会社の機器を接続する際に使用するケーブルのリユース(洗浄及び検品等)作業となります。

昨年の立ち上げ時は苦勞の連続で、どの様にラインを組もうか、無事に作業が回るのか等、様々な不安を抱えてのスタートでした。その不安は的中し、生産数が全く上がらず、定められた目標値も遥かまた夢。しかし企業さんとの調整や日々の職員間でのミーティングを重ねると共に利用者さんの作業の習熟度も日々上がり、右肩上がりの生産数を見て「今日は頑張りました」「明日はもっ

と綺麗な製品を作ります」そんな声も聞こえる様になり、最終的には企業さんの目標数値をほぼ達成することができました。

今では、利用者さん同士で「今日はこの目標でがんばります」「新しい仕事をしたいです」等、意欲的な場面も日常的に見られ、私の不安を皆さんが吹き飛ばしてくれた、そんな1年だった様に感じています。

住商班は、今年度4月からメンバーを増員し、新規作業も始まります。より会社からのニーズは高くなると思いますが、昨年の経験を活かし、利用者の皆さんが生き活きと仕事ができる環境づくりにがんばっていきたいと思います。

編集後記

4月から、新しい名称となり事務局も新たな思いで後援会としての活動に励みたいと思います。

今後も皆様の変らぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

編集人 あひるの会 後援会代表 国松実枝子

発行所 社会福祉法人あひるの会 後援会

〒275-0024 習志野市茜浜3丁目4番5号



後援会へのご入会を
お願いいたします。

一般会員(年間一口 3,000円) 法人会員(年間一口 10,000円)

郵便振替 00260-1-88365 口座名:あひるの会後援会

銀行振込 千葉興業銀行 津田沼支店 普-4771251

口座名:社会福祉法人あひるの会 後援会 代表 国松実枝子

入会申込み、問合せは事務局まで

047-452-2715 Fax 047-452-2693